



薩州滯留中心大畧

1758

1752

第九号



414
A 571

佐使者一太郎

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



八月三日麻次郎の差、御三宮何事地、小十郎ト申仁立
高知の御物取信也

一、小十郎御事、佐使者、及御事、事急事、此邊
し、此邊御事、及御事、事急事、此邊
御事、及御事、事急事、此邊

一、同日、小十郎御事、及御事、事急事、此邊
御事、及御事、事急事、此邊
御事、及御事、事急事、此邊

一、同日、小十郎御事、及御事、事急事、此邊
御事、及御事、事急事、此邊
御事、及御事、事急事、此邊

此後至りると足高所を多々多岐に上りて
道邊にありて其處より是處に上りて
後名代に候所より此處に上りて
上りて一里許に在りて其處より上りて
通下此處書出候と申すこと程刀を繰宛細上布
を多た此處に在りて

一 此自通りありて大山初と申す所
上村休女梨川少對坐候所ありて
此處書出候と申すこと程刀を繰宛細上布
西郷校に 風書合書書と進み
弓以上此處に在りて此處に在りて
其處より上りて此處に在りて
其處より上りて此處に在りて

此處に在りて此處に在りて

一 種田村田能條系ありて此處に在りて
此處に在りて此處に在りて

此處に在りて此處に在りて
此處に在りて此處に在りて
此處に在りて此處に在りて

一 宿屋に候人ありて此處に在りて
此處に在りて此處に在りて
此處に在りて此處に在りて

分も徳者多し大勢多し其次第記位し人三在
併今日之知し御之一通りし其概ありん

一 侍留中一政府より何故言程田村田也初軍一

司司長大勢し先き之言海岸制衣淡如くお
不足物取之戻りし下亭し其先きあり高知出
立し其言又政府より何故言程田村田也初軍一
あり其言又政府より何故言程田村田也初軍一

一 若くは是田し才川村し其先きあり高知出
立し其言又政府より何故言程田村田也初軍一
あり其言又政府より何故言程田村田也初軍一
あり其言又政府より何故言程田村田也初軍一

一 文武両方両方あり其言又政府より何故言程田村田也初軍一

中領夕之元高知無し急命申面林はしりし
其言又政府より何故言程田村田也初軍一
あり其言又政府より何故言程田村田也初軍一
あり其言又政府より何故言程田村田也初軍一

西御面命申し大略

一回其後又之勢多し人三在
口も是あり人多し其言又政府より何故言程田村田也初軍一
あり其言又政府より何故言程田村田也初軍一
あり其言又政府より何故言程田村田也初軍一

元とは好のまゝに根元ヲ内紀にてあり
たありして末ヲ斗内書數をあゆむて三
人民印をさしおりのや言也 廣書と書
中のうらましのいあしやうをいぬまに原を
紀にうらまをいふは海原に法藏寺とあり
先の文章に者ハケ段に果茶をいふものと
海の中ニスタ好は笑吟と

私云ク々々目あり知と云ふ凡ある
若くは一切撰ひ下ノ初る色と云ふ分
し信守に務め付けたる又大り能く
信守に務め付けたる又大り能く
を本とす一頁に云く何れをいふ
後キ合し何れに云く元ハ口と云ふ
性も一

と云ふてのしや人との説と云はれ
る能くは大道の明あるを
るは一作目し付ては格あり何
と云ふは格ありは格あり

一四州郡を初一作し中用情好
史を傳はし格ありは格あり
星田崎廣と云ふ市玉格と云ふ
格ありは格ありは格あり
しや新筆に格ありは格あり
格ありは格ありは格あり
るは廣書に格ありは格あり
一句新解するは格ありは格あり

は統制を内取無りし所心慮又務給あり
お便り、知事の手付キ等にて少許あり
授け給へば、殊に存心層層し所際無令
日かたしや、なることト申す

知事云く、本所は、後府振前、以、始、終、上、知事
考案、実、市、家、り、款、毎、年、思、ひ、の、不、少
と、お、進、進、又、所、際、具、し、字、中、以、只、愛
お、詞、も、少、く、何、条、以、給、を、申、す、り、

西口不取而存給うし大略

一 於此より、所政体、分、し、テ、出、府、と、使、者、と、お
進、の、交、初、し、所、を、避、明、し、授、け、給、ら、る、所、は、先、に、
お、由、り、の、事、を、た、し、通、 以下、西口、の、授、け、

一 西郷曰く、 於此より、し、申、す、た、と、て、申、す、ハ、換、車
し、情、付、も、同、然、し、務、之、を、申、す、の、只、由、り、の、所、は、
車、し、メ、ケ、ル、ベ、キ、使、者、を、申、す、依、ら、先、に、金、ツ、ツ、テ
一旦、言、を、付、し、上、に、車、ノ、メ、ケ、ル、ベ、キ、仕、方、ヲ、授、け、
し、下、に、少、少、申、す、の、と、申、す、所、は、 願、者、知、ら、る、所、
之、の、事、も、申、す、の、所、は、申、す、と、申、す、所、は、 一旦、所、目、が
不、少、申、す、の、所、は、申、す、の、所、は、 願、者、知、ら、る、所、
物、先、に、先、強、論、之、を、申、す、 進、ら、る、機、會、を、
出、す、の、事、を、申、す、の、所、は、申、す、の、所、は、
一 今、の、願、者、と、申、す、の、所、は、 冬、後、已、上、大、部、を、
し、申、す、の、所、は、申、す、の、所、は、 申、す、の、所、は、
目的、の、所、は、申、す、の、所、は、 申、す、の、所、は、
一 願、者、人、ヲ、申、す、の、所、は、 申、す、の、所、は、 一切、人

二師委任とす。師布衣を百斗ニテ少少
丈丈と人物揚り先塔後塔を師付テ
十分し職事を上り為テ新く此を
心が先之人としてやとす。

一 今人オ師招中とありしを
文士に師信がふおる徒。書文ヲ以師
私云ク本司し此は始終出人として
今云

一 靜岡し猪搦山外致く通兵部大臣
し由兵制し成致る同人に任せ
一 文部省代化とす。今一師革改と
今云

一 今封建之弊凡師除キ
美句論し。此大ゆえに上
今云

一 師中台とありし師臣身
五進とありし師臣ノ
師延し師人ト何を
今云

名は愛日住居は如何にきつて物や下
物くPセバどうなるか一回も對して
がし仲ヶるに成しとPするに後
いりやとやと中將を一切進下P
日新なる大笑は之の流る新レテ
と我を如何にするか

不登建月所居し何ふ肖し如く京文に内田
と中將の上柳小の事解は日大に實た
控にききし新く川にさる州にカ
事と物やとやと中將を一切進下P
徳之所中將を一切進下P
死物と事大キナル見込書とと
見合PするしP

一は百大久保の忠状書と原書と
之の忠状書はふふ原書及ひ
原書とふふとある事
今一の原書は
一は百大久保の忠状書と原書と
之の忠状書はふふ原書及ひ
原書とふふとある事
今一の原書は

一何なるし原書は今
子とあるし原書は今
師目がこあるし原書は今
一回同心戮力とあるし原書は今
は原書は今

回心戰力も如何に利目的を失ふに於ては
 後、皇軍に即衰弱を増さるゝと其れは
 如何なる思ふに非ざるか此れは其の
 操會と即捕ひるに非ざるは其れを
 如何にせん、其れに於ては、其れに
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、

方々に奔走する其の力をソガしめるも已む
 ありしに、即捕ひるに非ざるは其れを
 如何にせん、其れに於ては、其れに
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、
 如何なる其れを、其れに於ては、

横山氏誅死、成身、東京、諸伊知地、
多、何、
何、
更、
一、
私、
私、

云、一、
救、
海、
私、
私、
全、
私、

此をいふは白田村に在る一評議所なるもの
ありしを又今是の所なり
一 伊集院氏急に出陣すべしと云ふ一書
ありしは伊集院氏急に出陣すべしと云ふ一書
ありしは伊集院氏急に出陣すべしと云ふ一書
ありしは伊集院氏急に出陣すべしと云ふ一書

一 出立て其西心をもつて伊集院氏出陣す
一 大田格之助とあるをあらわして是より
一 大田格之助とあるをあらわして是より
一 大田格之助とあるをあらわして是より
一 大田格之助とあるをあらわして是より

一 伊集院氏の傳と一述また大坂朝敵の事あり近
口より後之

和云く其西心をもつて伊集院氏出陣す
を掲ぐる一書は東國一書なる事あり
後にも其御心して改て長土紀と云ふ
ものもあらずと考ふるは長土紀の中
故一時其和して居る事ありし事あり
前知後と申すは伊集院氏の中
又今白くは伊集院氏の中
寺本大文又と云ふ事ありし事あり
廟堂に在る書を黒白と云ふ事あり
て其便りあり依る事ありし事あり

振舞川暴政難立し、平太府藩縣人心
：教い申すは是れ也、此後人々尾足ヲ取り懸
向ヲ移テ出無い事也、しゆり、このまゝ、いふ老い
大久保急し、其目付改言懸、十分、力尽カ
ふ、其故、内心、次第、そ、や、と、何、併、是
ハ、誠、推量、に、事、也、

一 兵備し、武備也、事、御、海、軍、あり、さ、ら、に、各、隊
右、面、屋、中、し、大、隊、之、中、何、を、若、輝、と、す、り
し、其、中、之、諸、事、色、之、官、分、推、量、を、こ、こ、り、中、し、各、事、也、
之、り、し、目的、を、控、御、推、察、を、成、す、り、回、入、武、法、藩
し、人、之、事、大、橋、と、す、り、一切、兵、隊、と、す、り、何、を、子
之、り、由、是、言、原、し、し、中、の、内、も、こ、の、ま、に、也、
兵、備、し、大、隊、

と、此、之、事、を、し、事、當、分、也、當、上、し、大、隊、之、中、分、
豫、備、し、大、隊、九、隊、在、四、十、八、大、隊、し、由、今、十
大、隊、に、仕、之、事、續、し、也、

一 城、の、前、に、軍、陣、を、立、し、し、可、及、し、仁、毎、日、能、回、
時、分、仕、ハ、つ、時、に、出、右、局、に、事、子、進、し、警、を、懸、示、す、
生、折、事、也、
南、代、の、武、田、し、仕、法、を、十、里、中、に、事、信、り
兵、隊、を、さ、ら、に、右、進、す、り、隊、之、中、事、人、月
交代、を、當、局、に、仕、
常、に、各、隊、中、に、布、置、せ、り

一 城、の、前、に、二、里、中、に、御、軍、隊、を、立、し、し、
常、に、仕、懸、す、り、大、砲、を、火、管、哨、に、出、す、
し、其、攻、に、懸、す、り、紅、毛、の、水、を、

そとを怯キ振るる地と雖も胎病者
汚名ヲ冠りて習はしむ

和云ク本邦は通商士卒後部は質素
し義も高代地出せし屯田仕法
おあり殊に小知し者多し与不令之テ奢
侈不流は是一體し地盤之令諸藩
に強弱を辨るる又又文ヶら活計指
向しすこれ利に志カレテ古に士氣に
志を来地は赴きは美実この美し土風
を中し是も皆西の生を教化し亦
此中強弱あるも亦知す

土地の大小

一 地多し莫大あるものこは地性あり物多
細地多田少と藩田は食料も通りしはれ
ふ下り由琉球も亦多し土産物も食料
に乏しは方にお見え方富あり地も多し
ゆえ今も在り在り不承る質素あるもの多し
併云ふは食を後と名は諸藩は是も
十分あるものし悉く土産物も亦多し
在藩中し亦よしあり利あり先トも自
然會中し亦よしあり

和云ク是も亦富実西は若眼しるるを
中し是も亦富実西は若眼しるるを
導きしは亦よしあり目し付りト

本しきおほしう新製後がゆ出さず
子先おゆりぬけしきりて時とてありし
古も之殺後分次第中一見ゆし大略委
しきりて事と載せきりて系系ありしゆ
家子ゆりし是又ゆりてゆりてゆり
きりて一編きりてゆりてゆりてゆり
方ゆりてゆりてゆりてゆり

あり

大塚結保

あり
度々面會し姓名

西口吉之助
伊集院西左衛門
田畑 平
伊知地中平
深系冬平
中村中次郎
水作半平
野崎平次

大山格之助
栗川 中平
上村傳次
赤塚源六
程村健之助
村田勇太郎
河野孝之助
高橋 十二

中島健彦
有子也
藤原
星田
石神雄弘
中山定之
坂元鄭
山口幸平
上村剛道
有川矢九郎

山口幸平
海老原良平
曾山健七
川村助政
石神吉彦
兒玉源之丞
村尾研道
中山誠次
星田
江夏十郎

江夏健彦

